

# イチゴ「あまおう」の早期作型における 定植後遮光による「第1次腋花房の花芽分化」 の早進化

野菜栽培部

## 1 背景、目的

イチゴ「あまおう」の栽培において、年内収量を増加させるため早期作型が行われていますが、暖秋や施肥の影響により第1次腋花房の花芽分化が遅れやすく、1～2月の収穫の中休みが問題となっています。

そこで、第1次腋花房の花芽分化の早進化を図るため、夜冷短日処理苗を9月中旬定植する早期作型で、定植後の遮光処理技術を開発しました。

## 2 成果の内容、特徴

- (1) 定植後に遮光を行うことにより気温、地温、葉温やクラウン部の内部温度を低くすることができます(図1、図2)。
- (2) 遮光により第1次腋花房の花芽分化は、無遮光に比べ早くなります(表1)。
- (3) 遮光率60%程度の黒色寒冷紗を用いて、定植直後から9月25日までの間に遮光を開始し10月20日に終了すると頂花房の開花期が遅れ花数が少なくなる傾向がありますが、頂花房と第1次腋花房間の葉数が少なくなり、第1次腋花房の開花が早くなります。(データ略)。
- (4) 商品果収量は、定植後25日間から40日間の遮光により1～2月が多くなりますが、年内および総収量は同等です(図3)。
- (5) 基肥の窒素成分は、「とよのか配合(N:P:K, 8%:6%:3%)」を使用した場合に10a当たり慣行の5～10kgの範囲で遮光の効果が現れます(図3)。

### 3 主要なデータなど



図1 現地における定植後遮光の状況

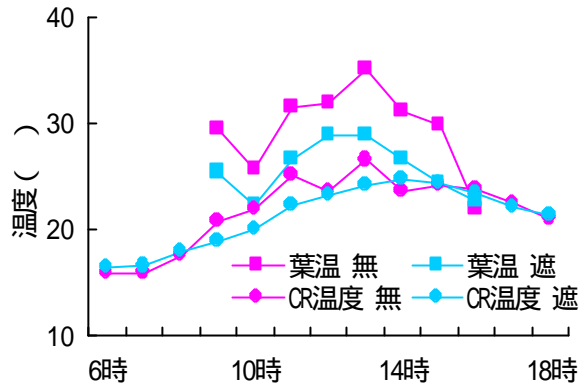


図2 遮光処理と葉温、クラウン部内部温度

- 注) 1. 平成18年10月3日に測定。  
 2. 葉温は、葉の表面を放射温度計 (MINOLTA HT7) で測定。  
 3. CR温度：クラウン部内部温度は5mmの深さを測定した。  
 4. 無：無被覆、遮：遮光処理。

表1 遮光処理期間および基肥窒素量と第1次腋花房花芽の発育

窒素施肥量 (10a 当たり)	遮光処理期間	調査日			
		10月10日	10月15日	10月20日	10月25日
5kg	0日	×	×	× ~	× ~
	25日	×	× ~	× ~	~
	40日	×	~	~	
10kg	0日	×	× ~	× ~	× ~
	25日	×	~	× ~	~
	40日	×	~		

- 注) 1. 9cmポット夜冷短日処理、平成18年9月11日定植。  
 2. 記号：×未分化、分化、がく片形成期、雄ずい形成期、雌ずい形成期、花。

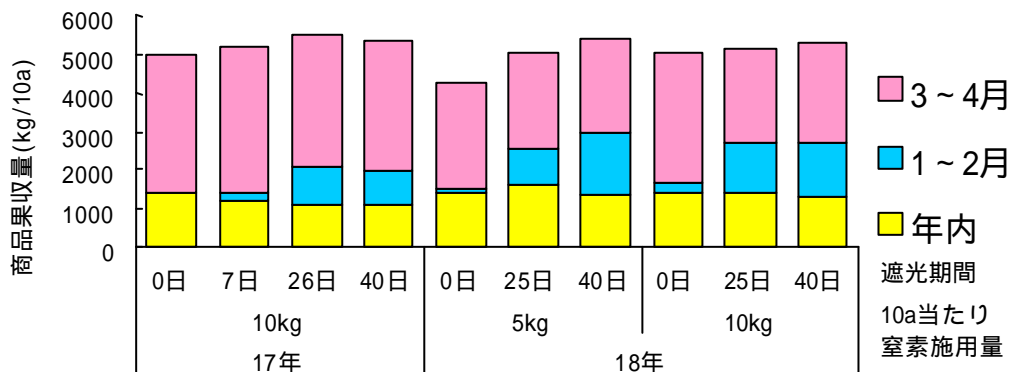


図3 遮光処理期間および基肥窒素施用量と収量

- 注) 1. 9cmポット夜冷短日処理、平成17年9月9日定植、平成18年9月11日定植。  
 2. 遮光期間は、10月20日から遡って被覆した期間。